

令和 2 年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2792000172		
法人名	社会福祉法人ライフサポート協会		
事業所名	大領地域の家であい グループホームであい		
サービス種類	認知症対応型共同生活介護		
所在地	大阪府大阪市住吉区大領5-6-2		
自己評価作成日	令和3年2月24日	評価結果市町村受理日	令和3年3月31日

【事業所基本情報】(介護サービスの情報公表制度の基本情報リンク先URLを記入)

http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/27/index.php?action=kouhyou_detail_2018_022_kan=true&jigyosyoCd=2792000172-00&PrefCd=27&VersionCd=022

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 介護保険市民オンブズマン機構大阪		
所在地	大阪府大阪市東成区中道3-2-34(JAM森の宮事務所2F)		
訪問調査日	令和3年3月18日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームであいでは、一人ひとりに沿った生活場面での環境づくりを暮らしの中で行いながら、「継続ある暮らし」の実現・「本人さんの想いを大切に暮らしへ繋げる」の実現を行っています。
また同じ敷地内にある、小規模多機能型居宅介護であい・障がい通所一ふ班と協働による企画立案などで、住みよい大領地域の家であいを目指しています。地域住民の方々やお子さん達と共に協働してつくりあげる企画などでは、年々ご参加くださる方も増加傾向にあり、であいの事一つひとつ知って頂く機会となっています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

高齢者・障がい児者の支援を総合的に行う地域の拠点として建てられた「大領地域の家であい」の2階にあるグループホームです。介護が必要になっても地域の中で暮らしたいとのニーズに応え開設されました。高齢者の小規模多機能型居宅介護、障がい者の生活介護、障がいグループホーム短期入所を併設しています。「すべての人が尊敬される社会の実現」の法人理念の下、今までの馴染みの人・場所・物との関係を断ち切らない、また、新しい関係を築いていくために地域との繋がりを大切にしています。現在はコロナ禍で地域との交流イベントは実施できていませんが、これまで地域との交流は積極的に取り組んできました。様々な企画において、地域住民と一緒に作りあげていくスタイルを大切にしています。流しソーマン大会や感謝祭には、地域の子どもや保護者が100名以上参加し楽しみました。管理者は住む人にとって、地域の中であいを第一に考えています。ホームでの看取りも実施し、「看取りは特別なことではなく自然なこと。関わってきた延長にあるもの」と、看取りの経験での貴重な学びを日々の支援に活かしています。職員が自分の親を入居させたり、入居させたいと思うこのホームには、利用者一人ひとりの人生を大切に暮らしています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

己	自部外	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	倫理綱領及び実践行動指針に基づいて、再周知を行っている。また、法人理念「すべての人が尊敬される社会の実現」を日々の利用者支援へと繋げていっている。	「すべての人が尊敬される社会の実現」の法人理念の下、倫理綱領及び実践行動指針を作成し、理念の具体的実践に繋げています。職員は、利用者一人ひとりを認め合って支え合う支援を心がけています。管理者は、利用者にとって、いい場所であることや家族が選んでくれたことに応える支援でありたいと職員に伝えていいます。ホームの名前「であいい」は、「一期一会」の思いも込められています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	これまでは、日々の買い物、町会行事や清掃、見守り隊などの場面で地域の方との自然な交流を深め、地域行事への参加、地域住民と一緒に作りあげる企画立案を行ってきた。今年度、コロナ渦において、これまで大切にしてきた事が変わらざる得ない状況。	現在はコロナ禍で地域との交流イベントは開催できていませんが、これまで地域との交流は積極的に取り組んできました。ホームフロア横の地域交流スペースは地域住民にも使ってもらえるように開放しています。利用者一人ひとりの馴染みの関係を切らないために、また、新しい関係を築いていくために地域との繋がりを大切にしています。流しソーメン大会や感謝祭には、地域の子どもや保護者が100名以上参加し楽しみました。地域の盆踊りの際は、「であいいの場所」を用意してもらっています。管理者は、様々な取り組みを通して、ホームと地域の距離が近くなったと感じて感謝しています。	コロナ禍が落ち着いたら、長年積み重ねた認知症ケアの知識や技術を、地域の認知症に対する啓発に活かす活動が、今後一層広がることが期待されます。地域住民や子ども達が、であいいのイベント再開を楽しみに待っていることでしょう。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症になっても、住み慣れた場で生活できる事を日々の関わりを通し、地域の方に見て頂く事が一番の地域貢献であると考えている。また、様々な企画において、地域住民と一緒に作りあげていく自然な形で交流できる場を創出している。		

己	部外	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者状況報告、事業所からの企画周知や町内会の行事確認及び事業所としての参画提案をさせて頂いている。その中で、地域への行事参加、地域と一緒に作りあげる思いで、行事立案などサービスの向上に努めている。今年度は、資料周知となる。	町会長、老人会代表、婦人会代表、家族、地域包括支援センター職員等の参加で会議を開催しています。会議では主に、ホームの状況、利用者の様子、行事等の報告を行い、参加者から評価や助言を得て、ホームの運営に活かしています。コロナウイルスの緊急事態宣言中は会議が開催できませんでしたが、会議メンバーへの近況、運営状況や活動報告等を詳しく書いた紙面配布で周知しています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	制度のことなど分からない事があれば、管轄である大阪市及び区に連絡し、解決に向けて確認を行っている。また、地域包括支援センターと連携の強化を行っている。2年目のオレンジカフェは、地域包括、ランチ共催による開店を行っている。	同法人に地域包括支援センターがあるため、市や区との連携は取りやすい状況です。困りごとがあれば地域包括支援センターに相談しています。自宅での生活が難しくなってきた方の入居依頼があり、受け入れに際して市の担当者、地域包括支援センター職員、ホーム職員と協議を重ねる機会があり、市との連携がより密になりました。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人の研修などを通して、どういった事が身体拘束になるのかの共有、意識の強化を定期的な自己チェックを用い行っている。自宅と同様、夜間においては、防犯の為に玄関の施錠を行っている。	身体拘束廃止マニュアル、身体拘束行動制限についての取扱要領、身体拘束が発生した場合の手順等を作成しています。身体拘束廃止に関する研修は年1回実施し、また、随時話し合いを重ねています。年2回、「虐待・不適切支援防止自己チェックシート」を活用し、身体拘束・虐待防止の意識を高めています。言葉遣いなどについても、改善にむけて職員間で話し合っています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内においては、「権利擁護」、部門内研修においては、「プライバシー保護」を通し、学びを深めている。今年度は、コロナ渦による蜜をさける事も踏まえ、書面周知及び委員会からの報告に留まっている。		

己 自 部 外	項 目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	上記7同様、法人内においては「権利擁護」、部門内研修においては「プライバシー保護」を通して学びを深めている。成年後見制度を利用されている方が居られるが、全体で学びを深めていく機会が必要。コロナ禍において、書面周知研修となっている。		
9	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は、できる限り分かりやすい様に説明することを心掛け、可能な限り時間を掛けて説明するように努めている。		
10	(6) ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご利用者とは日々の関わりにおいて、ご家族とは面会時や日々の電話連絡にて意見交換させて頂いている。また、年に1度、ご利用者ご家族へアンケートの実施を行い、運営に反映させている。	現在、コロナ禍で家族が参加するすべての活動や行事が中止の状況です。面会の方法は、地域交流スペースで時間を決めて予約制、テラスと下で距離を置く等、コロナ禍の状況をみながら工夫しています。大切な家族に会えない、手も握れないような状況下にあっても、利用者・家族の思いを大事にして関わっています。 年に1回、利用者・家族へサービスの質に関するアンケートを実施し、サービス向上の取り組みに活かしています。	
11	(7) ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	今年度は、定期的なヒアリングが行えなかった。日常出た声に対する改善などは助言が行えたが、定期的に職員が思いを伝えられる場の確保が必要である。	コロナ禍で全体会議の回数は減りましたが、日常の支援に関しては、数名でも集まって話し合うようにしています。毎年実施している管理者によるヒヤリングも今年度は行えませんでした。管理者は職員が離職しないで働き続けられるように「利用者と向き合うことで楽しかった事を共有し合おう」と伝えていきます。「しんどくても笑い合い頑張れるのは、利用者がいるから、仲間がいるから」というのが管理者の信念でもあります。	
12	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課を通し、日々の仕事の成果や実績を振り返り評価をしている。課題の抽出を行い、次期課題への取り組みへ繋げている。人事考課の結果が、賞与にも反映されるようになっていくと共に、毎年給料の更新を行っている。		

己 自部 外	項 目	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年度ごとに個別研修計画・人事考課を通して、職員個々の課題を明確化し、課題達成への取り組みに繋げている。また、自部署だけに捕らわれず、必要であれば法人内他部署の協力の下、研修の機会を設けている。			
14	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今年度は、コロナ渦の影響も大きく、交流の場はほとんど皆無であった。大阪市老人福祉施設連盟主催のグループホーム委員会への参画を行っている。			
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人がしたい事、できる事、望まれる生活を聞き取りプランを作成する為にも、インテーク場面から話し易い場の環境づくり、信頼関係構築の一步を大切に支援へ繋げている。			
16	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の不安な事、分からない事については、様々な場面において、時間を掛け聞かせて頂いている。ご利用者本人のニーズを生活場面を共にし、会議や研修で共有し、暮らしに繋げるように努めている。			
17	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事業所だけで抱え込むのではなく、ご家族の関り、地域社会資源の活用も考え、一緒になってプランを作成している。ご利用者本人のニーズを生活場面をと共にする事で共有し、暮らしに繋げるように努めている。			
18	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者を通し、地域を知り、ご利用者を通して生活の知恵を学ぶ姿勢を職員間で共有している。			
19	○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人とご家族の繋がりを切らさないように、事業所がすべてを対応しようとせず、「一人じゃないよ！」本人さんに関わる方々と「共に」の支援実践を行っている。			

己	自部外	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今までの係りつけ医や美容室などは出来る限り継続できるように取り組んでいる。入居の際に、馴染みの私物をたくさん持ってきて頂くように伝えている。アセスメントでご本人のこれまで歩んでこられた人生を知る。ご家族や知人への連絡等、関係性を断ち切ることがないように努めている。	管理者・職員は、今までの馴染みの人・場所・物との関係を断ち切らないことを大切にして支援しています。「毎日、帰りたいと言って帰る利用者には『お帰りなさい』と迎えてくれる近所の人が出たこと」「奥さんが入所している特養で夫の顔に戻る利用者の姿を見たこと」「大勢集まってくれるボーリング仲間が出たこと」「ホームでお経をあげる利用者には馴染みのお寺に通う日常があったこと」等、それぞれ自分が認められる「自分の居場所」に対するエピソードは、職員の貴重な教科書となっています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者の入れ替わり等もあり、ご利用者間の関係性の構築は日々意識しているが、まだまだ認め合いの場が少なく生活場面での繋がり暮らしの環境づくりの強化を意識している。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用が終了したご利用者に関しては、必要に応じた対応を続けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の望む暮らし、ご本人がしたい事をまず考え、プラン作成を行っている。その為に、本人の声、ご家族の声を十分に聴きとる雰囲気づくりに努めている。	管理者は職員に「その人を知らないと思えきれない。利用者の近くにいる存在であって欲しい」と願い、わからなくても知ろうとする姿勢の大切さを伝えています。コロナ禍での感染予防対応のため、職員と利用者の関わりが減っています。利用者のADL低下もみられ、今後の関わり方が課題となっています。	コロナウイルス感染予防対応中においても、職員と利用者の関わり方に、より一層の工夫を凝らし、より「その人らしい暮らし」の実現に向け努力されることを期待します。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人、ご家族からの声を頂き、左記の把握に努めている。また、その声をもとにプラン作成を行っている。		

己	自部外	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人が生活場面で出来ることを共にみつけ、一人一人の暮らしにおける思いを大切に関係づくりに努めている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングに際して、現場職員間での共有、ご本人の思い、ご家族の思いを計画書へ繋げている。	介護計画には、利用者・家族の希望を反映し、長期目標や短期目標に対し、具体的なサービス内容を示しています。担当者会議には、本人・家族も参加しています。介護計画の見直しは基本は6ヶ月毎ですが、モニタリングは毎月実施し、わかりやすく記載しています。施設サービス計画1表の本人の意向欄には、本人の話し言葉で意向や希望を書いています。計画作成担当者は計画作成にあたって「本人の思いを計画に入れることが大原則」と考え計画を作成しています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の変化や気づきは支援経過記録に残している。職員個々、出勤時に必ず記録物を確認出来る様に環境整備に努めている。変更があった内容や特記事項は別紙に記載し共有に努めている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人一人のニーズに合わせた支援に努めている。例えば、入居前に通われていたデイサービスへ自費にて継続的に通われたりと柔軟な対応に努めている。			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	これまでは、ご本人と地域資源、馴染みの関係は断ち切らない支援に努めている。今年度は、コロナ渦の影響もあり、地域社会との遮断傾向が強かった。QOL低下及びADL低下を引き起こす事が危惧される。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	出来る限り一人一人の馴染みの係りつけ医にて、ご家族対応或いは事業所対応にて連携を図っている。ご家族対応の場合でも、必ず受診情報を確認させて頂いており、必要に応じて医療機関に連絡・調整を図っている。	利用者や家族から、入居前にかかっていた医療機関やかかりつけ医の受診希望があれば、対応しています。かかりつけ医は利用者の疾病の専門医の場合も多く、事業所の協力医にその受診情報を伝え医療連携を図っています。		

己 自部 外	項 目	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携体制加算を算定しており、訪問看護事業所との24時間オンコール体制を行っている。また1日以上/週、訪問看護職員による訪問があり、健康チェックを行っている。ご利用者の状態変化の共有は常に行っている。看護師からも気づきの報告がある。			
32	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院された場合、定期的にケース会議を開催し、早期退院を促している。ケマネジャーを中心に、病院担当者との関係づくりに努めている。			
33	(12) ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期のあり方について、利用開始時にご利用者及、びご家族と話し合っている。また、著しい状態変化及び終末期のケアの際は、再度説明を行い、意向の確認を行っている。看取りケアにおける指針・同意書については作成は行っている。	終末期について、利用者・家族には入居時に看取りの方針を説明しています。職員間では、看取りは日常の関りの延長にある自然なこと、また家族と本人の大切な時間という認識を共有し、利用者の変化に応じチームで支援しています。看取り後の職員の心のケアも、気持ちを話し合う場を持つなど取り組んでいます。		
34	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	指示命令系統に則り、連携体制を整備している。急変時においても管理者へ報告を行い、指示を行う体制がある。			
35	(13) ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の避難訓練、日中・夜間を想定1回ずつ実施している。地域と情報共有は行うものと一緒にといった訓練には至っていない。	法人の大規模災害マニュアルをもとに、年2回、南海トラフを想定した避難訓練を行っています。食料品の備蓄の強化は令和元年度の目標達成計画に挙がっており、飲料水は5年間保存可能のものを備え、食材については検討中です。	食材も災害用に備蓄することが望まれます。	

己	自部外	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇研修を大切にしている。声掛けが怠慢であったりする職員には、その都度指導を行っている。また、入浴や排泄などの直接介助では、一人一人の個別の時間を大切に関わっている。	プライバシー保護マニュアルを作成し、実務に反映しています。定期的に接遇研修もしています。職員が利用者に対し指導的にならないよう配慮しています。例えば利用者の「帰りたい」という訴えに、帰れない理由を伝えるだけではなく、利用者が何故帰りたいのかを考えるケアを目指しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用開始のプラン作成では、本人がしたい事を中心にプランを作成。また、日々の関わりでは、献立作成、おやつ飲み物、日中の過ごし方を利用者と一緒に考えて実施。年間行事企画においても、入居者の声・想いを中心に立案している。生活の中では自己決定の連続だということを意識している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたか、希望にそって支援している	その時の想いを大事にし、対応できることは早急に対応するようにしている。その中で、「今後その人がどういった暮らしを望んでいるのか」ということを考える視点を忘れないようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	男性の方は日々のひげ剃り、女性の方はこだわりの化粧品など、今までの暮らしが継続できるように努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の想いを拾い上げる努力をしている。それらをいかに日々のメニューへ繋げていくかを検討中である。食事とは？の意識研修を行い、食に対する環境づくりについての見直しを行っている。五感を言葉だけでなく生活の中で感じられる取り組みを共に行い、食べたい 食べてみよう 食べるを暮らしの中で大切にしている。	コロナ禍で休止していた利用者との食事作りを、感染予防対策をしながら再開しています。献立に、利用者がTV放映や広告掲載をみて食べたいと思ったものを取り入れ一緒に作る、時にはお店にオーダーするなどもしています。それらの取り組みもあり、バリエーション豊かな献立を楽しんでいます。また主食は地域のお店から購入するなど、素材や味にもこだわっています。	

己	自	部	外	項 目	自己評価		外部評価	
					実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
41				○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	手作りであることから、細かな栄養指導は出来ていない。カロリー制限がある方は、量の調整、嚥下困難な方はトロミをつける、刻みにする等の工夫のみである。栄養バランスに関しては、一日10品目の食材を摂取出来るように献立作成を行っている。水分に関しては、いつでも飲める環境作り、細かな声掛けを行っている。			
42				○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個別に口腔ケア用品を準備させて頂き、食事後は声掛けを行っている。介助を要する方以外は、声掛け、見守りに対応を行うが、定期的に現場でのモニタリングを行い、プランに繋げている。訪問歯科での必要な治療や口腔ケアも行っている。			
43	(16)			○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	尿意・便意のサインを見逃さないように日々の関わりの中から観察している。現在、オムツを使用している方はおられず、できる限りトイレでの排泄を目指している。	詳細な排泄チェック表を作り、利用者個々のペースやパターンを掴みながら、トイレでの自然な排泄を支援しています。紙パンツを使用している場合は布パンツへの移行を目指し、利用者自身がパンツ内の排泄からトイレでの排泄に意欲を持つよう促し、職員が一緒に取り組んでいます。		
44				○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	生活の中で可能な便秘予防、具体的には運動や飲水、食事などで対応し、個別では腹部マッサージや腹部の温め、ヨーグルトの購入などで対応している。又、主治医との情報連携を密に行っている。			
45	(17)			○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴時間、回数の希望の聞き取りを行い、可能な限り希望に沿った形で入浴支援を行っている。また、個浴にて1対1での入浴支援を原則とし、コミュニケーションを深める場と捉え関わっている。	入浴は週3回を目途に時間や回数は決めず、夕食後の入浴なども、利用者の希望に沿って行うようにしています。車椅子使用の場合も、個浴で湯船にゆったり浸かれるよう支援しています。また同性介助、使い慣れたシャンプーや石鹸などの要望にも応えるようにしています。		

己 自部 外	項 目	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
46	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜に気持ち良く眠れるように、日中における活動を心がけ、もし眠れないことがあっても、単に眠れないではなく、理由を考察して本人の想いに寄り添うようにしている。			
47	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者服薬情報を個別にファイリングし、服薬管理が必要な方は事業所にて管理、服薬確認をさせて頂いている。また、居宅管理指導にて薬剤師との密な情報共有を行い必要な際は、助言を受けている。薬の内容が変更になった場合は、電話や面会時にご家族へ報告を行っている。			
48	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	役割作りのために、個別に輝ける場面を創出している。例えば、起きてこられて直ぐの方で、お昼に使うお米を毎朝洗ってくださる。一緒に花を植え、毎朝の水まきを率先し行ってくださるお花を大好きな方がおられる。食事準備に精を出される方や他の方の白飯を注いでくださったり、私も役に立ちたいと頑張ってください方がおられる。洗濯を手伝ってください方や食器を濯いでくださる方もおられる。しかしながら、コロナ渦の状況で、予防対策を行いながら、暮らしの中で一人一人と共にある事の難しさも痛感させられる年度であった。			
49	(18) ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個別のニーズによっては自宅へ帰ったり、ご家族へ会いにいたりなどの必要性は勿論考えているが、コロナ渦において、これらの展開には工夫と変化を余儀なくされた年度となった。	コロナ禍で従来のような外出支援ができていない中、リビングに隣接した広いテラスで花を育てるなど外気に接する工夫をしています。花が咲いたら奥さんにプレゼントしたいと、重度化の進む利用者がチューリップ栽培に励んでいるケースもあり、利用者の気持ちに寄り添う支援を行っています。		
50	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人での管理及び事業所で金銭管理をし、コロナ渦における現状、必要なものは代行にての買い物となっている。「お金を使って何かをしたい」と思えるようなことを一緒に考えていきたい。			

己	自	部	外	項 目	自己評価		外部評価	
					実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
51				○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	知人や、ご家族など入居者の希望に応じて連絡をとっている。現在個人携帯を持っておられる方はおられない。手紙に関しては、行事の際などのお便りや年賀状等を送っている。			
52	(19)			○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日の清掃で清潔を保ち、生活の中の音を大切にしている。絵画など、季節感あるものを設置する事で四季折々を感じれるように工夫している。また、一人ひとりにとっての空間を大切に、ソファの配慮や向きなどに配慮している。	2階リビングは東と南側のテラスから太陽光が入り、隣接のキッチンから調理の音や匂いがしてきます。テーブルは使う利用者によって高さを調節しています。リビングやテラス、廊下にはソファや椅子を複数配置し、共用空間の中でも各人にとって居心地よいスペースを工夫しています。		
53				○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下にソファを置き、集団に疲れたときに独りになれるような人の目を気にしない自分の場所。ホッと出来る場づくりを入居者と共に作る取り組みを行っている。			
54	(20)			○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの私物などを持ってきていただくようにはしている。特に馴染みの家具や家族写真アルバムなど。自分の物で溢れた環境での暮らしに配慮している。	各居室の入口は対面にならないように設計され、長い暖簾をかけてドアが開いた時のプライバシーも守っています。家具の持ち込みは自由で、冷蔵庫を置いたり床に布団を敷いているなど、利用者個々の趣向で設えてあります。		
55				○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの声、その時々々の想いに触れる事を大切にしている。例えば、何かが出来にくいとしても、それ全部が出来ないのではなく、関連する何かが出来にくいだけなのかもしれない。本人がどここの部分が出来にくいのか？表面上だけでなくしっかり向き合う事を意識している。			